

実践で利用可能な食事療法における科学的根拠の構築

研究概要

実践で利用可能な食事療法における科学的根拠を構築する。



食環境科学部 健康栄養学科

角田 伸代 教授 Nobuyo Tsunoda

研究キーワード: 魚油 インクレチン 糖尿病 脂質異常症 脊髄損傷

URL: <http://researchmap.jp/60337483>

研究シリーズの内容

生活習慣病の発症に食事の寄与は大きく、生活習慣病予防・治療に食事療法は重要な位置を占めます。そのため、生活習慣病を予防・改善する食事、食品、環境などについての研究は数多く行われています。しかし、病院や特定検診に来る患者さんの身体状況や病態、食生活状況は千差万別で、画一的な科学的根拠のみでは食生活改善アドバイスに困る場面が多々あります。そこで、本研究室では、病院や特定検診など実践の場で利用可能な食事療法における科学的根拠を構築するための研究を行っています。

1) インクレチン分泌調節を通じた糖尿病食事療法の構築

食事をすると、小腸からインクレチンというホルモンが分泌され、インスリン分泌を促進します。特に魚食では、この作用の強いことが報告されています。魚によるインクレチン分泌促進作用機序の解明と、魚食を取り入れた糖尿病食事療法について研究しています。

2) 脊髄損傷者の栄養管理

脊髄損傷者には車椅子利用者が多く、生活習慣病患者も健常人より多いことが知られています。生活習慣病と食生活・身体活動は密接に関連しているにもかかわらず、脊髄損傷者の食生活・身体活動についてはほとんどわかっていません。この点について調査検討し、脊髄損傷者の食生活ガイドライン作成につなげたいと思っています。



活用例・産業界へのアピールポイント

- ・新規あるいは既存食品・料理の患者を対象とした臨床研究
- ・科学的根拠に基づいた臨床の場で利用可能な食品の開発・利用法の検討
- ・脊髄損傷者のように車椅子生活を余儀なくされている人々のための健康管理器具の開発・利用法の検討
- ・実践の場で利用できるエビデンス集の作成

特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)